

購読の申し込みは
日本医労連へ

購読料 年間1,500円(送料込)
(組合員の購読料は組合費に含む)

送金口座 中央労金荒川支店(普通預金)1123296
郵便振替00160-6-84866

ホームページ <http://www.irouren.or.jp/>
電子メール n-ask@irouren.or.jp

医療労働者

医療・介護・福祉労働者の生活と権利、国民の命と健康を守る

第1863号 2025年11月27日

編集・発行
日本医療労働組合連合会
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
日本医療労働会館3階 TEL03(3875)5871
発行 毎月2・4木曜日

(昭和36年9月15日)
(第三種郵便物認可)

団体署名2000に迫る、オンライン署名は4万筆突破！

報酬10%以上引上げに広がる賛同の声

追い風に、春闘へ向け世論形成へ！



25秋闘では「ケア労働者の処遇改善につなげる報酬10%以上引き上げ」を求めた「団体署名」「一言カード」「オンライン署名」が取り組まれ、賛同の声が大きく広がっています。日本医労連では、それらの声を厚労事務次官要請や記者会見で伝えました。

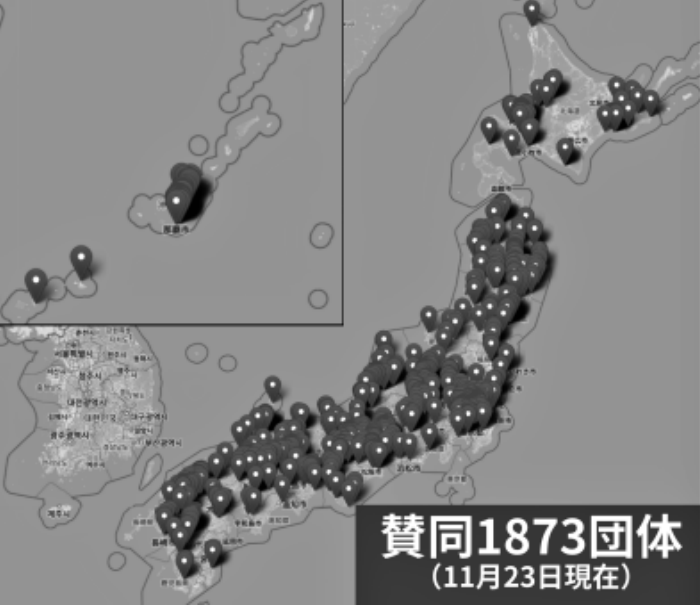
25春上回る団体署名マッピング

この秋の取り組み「安全・安心の医療・介護提供体制を守るため、すべてのケア労働者の処遇改善につなげる報酬10%以上の引き上げを求める要請署名」は、9月中旬から

の急遽の呼びかけにもかかわらず、各地での旺盛な取り組みにより、11月24日時点で2000に迫る賛同が寄せられています。日本医労連では、公式WEBサイトで団体署名の賛同団体を日本地図上にマッピングして、その数を見える化し、メディアやSNS発信に活用しました。賛同は、25春闘でのストライキの事業所決議数をはるかに超えて、増え続けています。

Xの発信でオンライン署名広がる

Xでの発信も各加盟組織から旺盛に行われました。「いのちまもる国民集会」から引き続き「もう限界」をキーワードに、写真や動画を交えてリアルな現場実態が伝えられました。



Xデモは、3回にわたって行われ、ハッシュタグのトレンド入りには至らなかったものの、加盟組織からの繰り返し発信によって、オンライン署名が広く拡散されました。立ち上げからわずか4週間で、オンライン署名への賛同数は4万2千を超えました。

団体署名とオンライン署名、いずれも賛同数を短期間で大幅に伸ばせたのは、ケア労働者の賃上げが当事者だけの問題ではなく、社会の基盤である医療・介護を守るために欠かせないことであるという、社会的な合意が形成されつつある証左です。

厚労事務次官へ報酬引き上げ世論伝える
11月12日には、医療三単産



で伊原和仁厚労事務次官へ夜勤規制の要請を行いました。その際、団体署名とオンライン署名、そして一言カードを渡し、夜勤規制と大幅増員を実現するためにも、報酬10%以上の引き上げが必須であることを強調しました。

この間、報酬改定をめぐる情勢も大きく動いています。11月12日には、東京都が「診療報酬改定等に関する緊急提言」を行い、約10%の報酬引き上げを求めています。また、11月14日には、政府が介護報酬の期中改定の方針を固めています。

私たちの要求を実現するまでとない好機です。より一層の取り組みで世論を広げ、26春闘へとつなげていきましょう。

年末一時金引き下げ、史上最悪

秋闘回答受け緊急記者会見

11月13日に衆議院議員第2議員会館で「政府にケア労働者への迅速な処遇改善を求める記者会見」を行いました。

会見には三単産それぞれの代表者と、現場で働く医労連の仲間6人が参加しました。米沢哲日本医労連書記長は会見で、史上最悪の引き下げとなったこの秋の年末一時金の回答状況について、過去20年の回答状況をグラフにして、今年の引き下げ幅の大きさを示しました。そして、こうした窮状には、物価高に追いつかない報酬にも一因があるとして、10%以上の報酬引き上げが必要であることを改めて強調しました。

参加者からも訴えが相次ぎました。「若い看護師が、一時金が安いから、賃金が安いからと言って辞めていく状況。人のいのちを守るために、緊張とストレスで自らのいのちをすり減らしながら、不規則な夜勤を常に行っている。今回の年末一時金引き下げは、働いていくという希望を失わせかねないもの」として、早急な処遇改善の必要性を強く訴えました。

25秋闘回答状況

昨年実績超えの単組でも「コロナ禍前水準超えず」

11月21日時点での回答状況では、185組合が回答を引き出し、正職員の月数平均は1・705カ月(前年最終1・86カ月)、一律3万487円(同2万7920円)、平均支給額は46万2565円(同48万592円)です。パートの月数平均は1・112カ月、一律平均2万8563円、平均支給額は13万7671円となっています。

依然として、平均は昨年よりも低い水準であり、昨年実績を上回っているところでも、コロナ禍前の水準には到達していません。さらなる労使交渉に加え、報酬改定の議論が進む今、世論へ実態を訴えていく必要があります。

(2025年末一時金回答状況(11月21日時点))			
	月数(カ月)	一律(円)	平均支給額(円)
正職員	1.705	30,487	462,565
パート	1.112	28,563	137,671

脈路

テレビ離れが進む今、SNSを活用した広報は労働組合にとって重要性を増してきています。我々の運動をよの多くの世論に届けるため、どのようにSNSを活用すべきかという議論も増えてきました▼なかでも青年活動では関心が高く、青年委員会でも複数のSNSを比較検討しました。その際、若い世代ではLINE離れが進み、未読数の表示すら負担に感じる人がいるとの声が出されました▼情報を届いたから見、から「見たい時に見る」と変化し、LINEのように一方的に通知が届く形式は参加意欲につながりにくいのではないかという議論もあり、結果としてインスタグラムの開設を決めました▼また、インスタグラムなら複数の端末からログインできるため運用する人の負担を分散できるほか、写真のみならず動画も共有できることから普段の会議など楽しく活動している様子をより身近に伝えられる点も大きなメリットに感じました▼若い世代は仕事後や休日を自分の時間に使いたい傾向があります。ですが全国アクトには多くの若手組合員が参加し、また参加したいという声も寄せられました。絶対に参加したくないのではなく、踏み出すまでの敷居が少し高いだけなのだと感じます。これからのSNS広報を通じて、よの多くの仲間へ届くよう魅力が伝わる情報発信を進めていきます。

総務省

総務省要請では、自治体病院における地域医療の充実を求め、渡辺副委員長はじめ8人が参加。総務省からは2人が対応しました。

財政支援や賃金改定に関わって総務省は、自治体病院が不採算医療や特殊医療など地域医療にとって重要な役割を担っていることを踏まえて必要な地方財政措置を行っている、不採算地区への特別交付税措置を引き上げたと回答。

また、経営状況が厳しいことは認識しているとしながらも、人勧実施については各病院の判断に任せていると回答しました。参加者からは、人勧実施ができていない自治体

病院の職員は、役場職員と同じ身分であるのにあまりにも不公平な扱いになっている、実態を認識しているにもかかわらず見過ごしていることに対して考え方を改めたいと訴えました。また、自治体病院の経営が赤字であることで賃金がともに確保されていない現状や、賃金水準が他産業と比べて低いこと、人材が集まらず慢性的に人材不足となり働き方に影響が出ていることなどの現場実態を伝えました。

自治体病院の9割が赤字になっている現状について、総務省としてどのように考えているのか問うと、「収入の大部分を占める診療報酬をめぐる状況を注視して、引き続き必要な対応をしていく」と回答。



参加者は、地域の重要なインフラでもある病院がなくなれば、地域経済も支えられなくなる可能性があること、総務省は地域住民の健康を守る立場にあることを強く訴えました。

文科省

文科省要請では、大学病院の役割にふさわしい医療提供体制・療養環境の整備にむけた対策や財政措置等を求め、森田副委員長をはじめ14人が

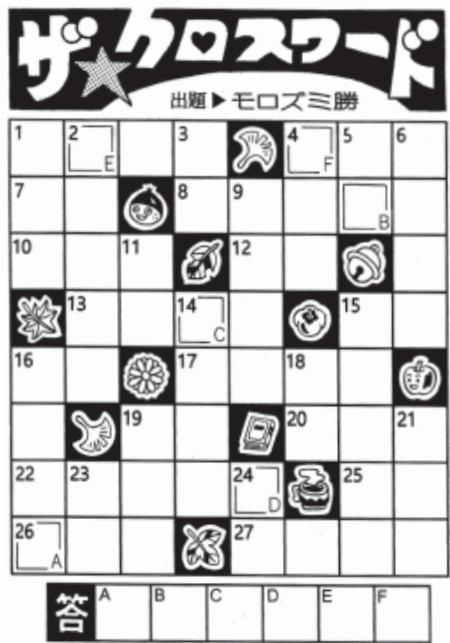
参加。文科省からは3人が対応しました。

文科省は大学病院の経営状況について、なかなか厳しいと認識を示したうえで、「診療を行うための基盤が崩れているのではないかと懸念している。今回の概算要求では大学病院の教育研究機能を強化する予算を60億円要求している」と回答。



物価高に対して診療報酬改定が全然追いついていない状況も認識しており、「厚労省に診療報酬改定についてお願いしつつ、文科省としては診療ではなく教育研究の部分を支援し大学病院の機能が低下しないように引き

続き支えていく」と回答しました。参加者からは、「新人教育ができる5年目以上の看護師が減っている」「看護師に限らず、コメディカルも人員不足になっている」「ベア評価料も限られた職員だけになっている」「私学の補助金について国立と私学の差を改善してほしい」との切実な状況を訴えました。また、「大学病院の使命が守れない、国としての医療と教育の在り方を考えてほしい」「地方の人口減少の中で地域の医療・教育の在り方も厚労省と連携して国に要請してほしい」「診療報酬改定に対して、今後どのように対応していくか聞かせてほしい」と要請しました。文科省は、「普段は経営側の話は聞いているが、現場の



■ヨコのカギ

- アメリカ49番目の州
- 酉の市の縁起物
- 干すと甘くなる……柿
- ツルやツバメは……
- ……蛾。……剤
- 「青春の……」。「星……のワルツ」
- 異常発熱を引き起こす……配線に注意
- 釣り……。クモの……
- ……ホルダー。……ワード
- 電子メールで、表情などを表現
- 手術のことです
- 優勝……。……麵
- 先に立って導く人
- フランスの首都
- ……ガラス。……玉
- 木の年齢が分かります

【問題】二重ワクの文字を、A～Fの順に並べてできる言葉は、なに？

タテのカギ

- オットセイは……科
- 昔は恋文と言いました
- 取らぬ狸の……算用
- 馬の毛色の名前
- 目は心の……
- パソコンの文字などを削除する……キー
- 海面の異常な上昇と高い波
- ノアの……舟
- 伴奏なしで歌うこと
- 強情っぱりとも言いう
- 啄木鳥って読めますか
- 代表的なコーヒー豆
- 十八番
- 洋風の蒸し菓子
- ニラは……科植物
- コメのなる作物

業者トラブルが増えています

医労連共済だより

「保険使える」ご用心

戸別訪問で「瓦がズレてる。保険が使えるから直した方がいい」など、不安を煽って家の修理を促し、保険が使えない高額修理や法外な報酬請求をされてトラブルになるケースが増えています。とくに台風や大雪、地震など自然災害が発生した後に、トラブルが多くあります。点検すると言いつつ、わざと屋根を壊す業者も存在します。国民生活センターなどへの相談はこの5年で約3倍にもなっています。

医労連共済に連絡を

また、保険や共済は災害で壊れた部分のみが保障対象ですが、悪徳業者は、経年劣化など対象にはならない部分まで修理をして、虚偽の理由で加入者に保険金や共済金を請求させることもあります。これは詐欺です。業者だけでなく、請求をした加入者も詐欺に加担したとして罪に問われる場合があります。災害で被害がたまった場合は、まずはご自身の安全を確保した上で、医労連共済にご連絡ください。☎0120-160931

医療の眼

これっておかしな
いですか？

「猛烈な物価高で生活が厳しい時に、医療・介護労働者だけ賃金が上がらないなんてありえますか？」人事院勧告では、22年から4年連続でベアスアップも一時金引き上げも実施したのに、賃金が上がらないなんてありえますか？「政府がケア労働者の賃上げが必要と宣言し、診療報酬や介護報酬で賃上げ施策がされているのに賃金が上がらないなんてありえますか？」「自らの感染リスクや行動制限の中で、長引くコロナ禍から国民のいのちと健康を必死に守ってきたのに、賃金が上がらないなんてありえますか？」

すべてのケア労働者の大幅賃上げに向けて情勢は動いている

24年の報酬改定では不十分な賃上げにしかならなかった。しかし、ベア評価料や介護処遇改善加算を実施させたのは、私たちの運動の成果であることに確信を持つ。

不十分な内容であったからこそ、次の改定では「基本報酬で10%以上の引き上げを」の声が医療・介護現場からの労使共通の要求になってきたのである。国会も動き出し、厚労省も動き出している。あとは財布の紐を握っている財務省の姿勢を変える必要がある。その決め手は国民世論だと思

いまこそ「怒り」を組織しよう

である。国会も動き出し、厚労省も動き出している。あとは財布の紐を握っている財務省の姿勢を変える必要がある。その決め手は国民世論だと思

報酬引き上げには 国民負担が伴う

確かに診療報酬や介護報酬が引き上げれば、患者・利用者負担につながる。しかし、国民生活に不可欠なガスや水道・電気・公共交通などの基幹インフラは、人件費や物価の高騰分は、政府や自治体の認可で価格を上げ、国民負担が税金投入を判断している。いま政府は、医療についても基幹インフラに位置つける議論を始めている。であるならば、そこにかかる必要経費は、政府の判断で調達するべきであり、労働者の賃金は他のインフラ産業と同様に引き上げることが当然である。国民負担を増やせないという判断があるのであれば、莫大に増やしている防衛費を削って、国民負担にならないような手立てを講じればよいのである。

私たちの運動次第で不可能が可能になる

職場からの一言カードを持って、介護報酬改定の議論をする「社会保障審議会介護給付費分科会」の某委員に要請を行った。その際の委員は、「介護現場の困難さは理解しているが、残念ながら介護報酬の期中改定を行うような議論などはまったくない」と言い切った。しかし11月に入り、政府は自民党の政調会の会合で、「介護職の賃上げを進めるため、介護報酬を臨時改定する」と報告したというニュースが流れた。世論の動きで政治は変わる。その世論を如何に広げるか、私たちの力量が問われていると思う。

不十分な賃上げにもっと怒りを示そう

米国や仏国など欧米諸国の労働者は、大がかりなストライキを組織し、大幅賃上げを実現させ、年金支給開始年齢の引き上げを阻止した。かつて我々医労連の諸先輩方も60年の病院ストや、89年のナースウエーブに全国の医療労働者一丸となつて取り組み、大きな成果を上げた。運動の発火点は労働者の「怒り」であった。安全・安心の医療・介護に直結する私たちの要求に自信を持ち、すべての医療・介護労働者が「自分事」と受け止め、胸を張って大幅賃上げ実現に向けて運動を一緒にすすめよう。 森田進